



5月26日福岡県筑後市で開催された、第18回環境自治体会議であいさつする松村副市長

環境自治体会議って？
環境政策に積極的に取り組んでいる全国の自治体で構成されている会議。自治体や団体間のネットワークづくりを推進し、情報を共有することで環境政策を推進することを目的としています。
現在56自治体に参加しています。



■「エコ環境都市をめざして」
勝山市内では、これまでご紹介してきたように環境に関するいろいろな取り組みが行われてきています。「クリーンアップ九頭竜川」をはじめとする河川清掃・保全活動や、「かつやまをきれいにする運動」「花いっぱい運動」による地域内での清掃活動、学校での環境学習活動などが広がってきています。

■市役所の取り組み
勝山市役所では、第20回環境自治体会議開催に向けて、環境に配慮したさまざまな活動を行っています。具体的に取り組みとして、市職員による市内のボランティア清掃活動、自動車に代わる通勤手段として公共交通機関や自転車を利用する「カーセーブデー」、夏季に実施する「クールビズ」(庁内気温を28度に設定、ノー上着、ノーネクタイ)など、エコ環境都市の実現を目指してさまざまな取り組みを実施しています。

平成24年 勝山市で全国「環境自治体会議」開催へ

5月26日に福岡県筑後市で開催された環境自治体会議平成22年度総会において、平成24年に勝山市で全国大会を開催することが承認されました。

ごみ減量化のために できること

市内の家庭や事業所から排出されるごみの量は年間7500トンを超え、ひとり当たり約280キログラムのごみが出されています。ごみの排出量が増え、その処理工程による大気中の二酸化炭素量の増加などを招き、環境へ悪影響を及ぼします。「ごみゼロ社会」を目指し、ごみの減量化の実現のためには、家庭や地域における「3R」(リデュース、リユース、リサイクル)の推進や生ごみの減量、紙の分別などが不可欠です。



地域・家庭から始める「3R」・ごみ減量

**リデュース
(Reduce)**

家庭から排出されるごみそのものを減らすこと
マイバッグ運動や、過剰包装のものを買わないなど。

**リユース
(Reuse)**

繰り返し使うこと
壊れても修理して使う。古着はリサイクルやフリーマーケットに。

**リサイクル
(Recycle)**

ごみを再び資源として再利用すること
缶、びん、ペットボトルなどごみを分別して排出する。



ワンポイント “家庭ごみ減量”

・生ごみはギュッとひとしぼり！家庭で実践「生ごみ減量大作戦」

生ごみの80%は水分です。この水分を減らすことでごみ減量になり、焼却施設にかかる負荷も減らせるためCO₂削減になります。

夏場は特に水分の多い食材が使われるので、ごみ袋に入れる前にギュッとひとしぼり！水分をしっかりと切って出しましょう。

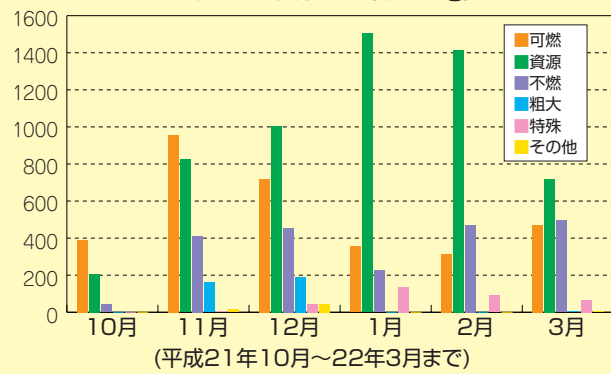
・「紙類」は分別してリサイクル

家庭から出るごみで一番多いものは「可燃ごみ」。その中に再利用できる紙がたくさん含まれています。

勝山市では「新聞紙」「段ボール」「その他の紙」「紙パック」に分別収集し、リサイクルを行っています。きちんと分別して再資源化にご協力ください。



不法投棄パトロールで回収した可燃・不燃・粗大・特殊
その他の廃棄物の量(単位:kg)



廃棄物の不法投棄は、重大な犯罪行為です。もし不法投棄を発見した場合は、速やかに不法投棄110番(☎88・8104)までご連絡をお願いします。

STOP! 不法投棄 不法投棄防止 パトロール強化中

勝山市では、昨年度より、継続的に不法投棄防止パトロールを実施しています。パトロール中に、これまで撤去された不法投棄廃棄物は、テレビ、冷蔵庫、洗濯機等の家電やパソコンや廃タイヤなど多岐に渡ります。

広がる「マイバッグ」

4月1日から一部市内量販店で、レジ袋の有料化が実施されています。平成18年度に39%だったマイバッグ持参率が、有料化を実施した店では、今年の4月に90%を超えています。これまでの地道な運動の成果が表れています。

誰もが簡単に取り組める身近なエコのマイバッグ持参運動をみんなで推進しましょう。

マイバッグ持参率の推移

| | |
|-------|-----|
| 18年度 | 39% |
| 19年度 | 46% |
| 20年度 | 58% |
| 21年度 | 60% |
| 22年4月 | 91% |

※18〜21年度数値は、勝山市と勝山市消費者団体連絡協議会調べ
※22年4月分の数値は、レジ袋有料化を実施した市内4事業者の定期報告によるもの



市消費者センターに寄せられたマイバッグは貸し出しをしています。